

平常心

長浜高等学校

私が校長として初めて赴任した長浜高等学校の部旗の「平常心」という言葉について考えてみます。

剣道を学ぶ者にとって、とても大切な言葉であるこの言葉は、「臨濟録」や「無門関」という禅の古典に登場する「平常心是道（びょうじょうしんこれどう）」という言葉に由来します。

趙州（じょうしゅう）という僧が師匠の南泉禅師に「道とはどんなものですか」と聞いたところ南泉禅師は「平常心是道」と答えられました。「悟りへの道などといってなにも肩肘張ることではない。常のことを常のように受け止める常の心そのものが道だ」と南泉禅師は答えられたと解釈しています。

また、宮本武蔵はその著書「五輪の書」水の巻「兵法の心持の事」の中で、「兵法の道におゐて、心の持ちやうは、常の心に替る事なかれ。」と述べています。

命をかけた戦の場で、常日頃の心をもつて臨むことが大切だと述べていますが、武蔵のいう「常の心」は「平常心」のことです。

武蔵の時代の戦の場とは、今日、剣道を学ぶ人々にとっては、日頃磨いた腕を競い合う試合のことだと思います。その試合に臨むときに常の心を保つことができるかどうかは、平生の稽古をいかにして試合の時の気持ちになってやってきたかによるのではないかと思います。試合に緊張はつきものです。その緊張感を自分の味方にして自分の力を発揮して競い合うためにも、どんな場面にも動じない「平常心」が大切であると思います。

注 禅の世界では「びょうじょうしん」と読みますが、一般的には「へいじょうしん」でよいと思います。

（平成20年6月5日滋賀県高等学校春期総合体育大会剣道大会開会挨拶より）

「平常心について思うこと」

（平成20年10月20日追記）

「平常心」という言葉で思い出すのは、新任で赴任した大津商業高等学校の道場に掛かっていた扁額のことである。戦前の大津商業学校剣道場には、剣道師範の勝本種一先生が、大正15年武道専門学校を卒業し大津商業へ赴任されるに際して、武専校長であり「武術」という言葉を「武道」と改められたということでも知られている西久保弘道先生に揮毫してもらわれた「平常心」の扁額があった。戦後、この額は学制改革やGHQによる剣道禁止令などにより道場から降ろされ勝本先生の家で保管されていた。

昭和49年大津商業高校に柔剣道場が新設されたのを機に、旧制大商の卒業生で勝本先生の教導を受けられ母校で教鞭をとっておられた藤田博先生が、故人となられた勝本先生の御家族の御了解を得てこの額を新道場に掲げられ、旧制・新制の大商剣道部のOB等を集めて道場開きが行われた。以後この額の文字に力づけられながら私も剣道部の生徒も稽古に励んでいた。その後残念ながら大商には剣道部がなくなり、また、傷みが激しくなっこともあり、この額は再び道場から降ろされた。戦前戦後の大商剣道部の、否、我が国の剣道の歴史の一コマを黙って見つめてきた「平常心」の扁額は、剣道部OB達が募金して修復を行い、現在は大津商業高校資料館に保管されている。